

令和5年度「地域学校協働本部事業」 「榊葉町地域学校協働センター【家庭教育部門】の取組事例」

「保護者が気楽につながりあえる関係性の構築を目指して」(福島県榊葉町)

取組の概要や経緯

榊葉町では、保護者の多くが思春期など多感な時期に原発事故災害とその後の4年半にわたる避難生活により、心理的ストレスを強く感じており、そうした保護者に育てられた子どもの中には、不安感や依存度が強く、集団への不適応などを示す子どもが少なくない現状であった。また、愛着障害や発達に難をもつ子どもの出現率も高い。そうした保護者の家庭教育力を高めることを狙いとして、令和5年度より地域学校協働活動センターに家庭教育部門を開設し、他の地域学校協働活動と関連付けた効果的な事業を展開することとした。



内容

- こども園の運営に、発達や心理の専門的な知見を活かした支援を展開
 - ・月に2度程度、スクールカウンセラーによる巡回相談指導を実施
 - ・発達や心理、特別支援教育などに関する保護者向けの講座を年に4回実施
- 不登校児など、支援を必要とする小中学生を対象とした多様な関わりの機会の創設
 - ・協働センター内に日中利用できる専用ルームを設置
- 子育てをテーマとして、保護者間でつながる機会を設定
 - ・協働センター内に保護者向けサロンを週に2回程度開設
 - ・親子交流イベントやモノづくりなどの保護者向けワークショップを定期的実施
 - ・小学校進学に合わせた学校見学ツアーや進学相談を実施



今後の方向性

- 残念ながら保護者向けサロンの利用率は大変低く、ニーズが低いことがわかった。次年度は講座や親子参加型イベントなどを核としていきたい。
- 町内には多くの類似事業があり、差異化が難しいため、同様の活動については関係機関と協議し、連携と見直しを進めていきたい。
- 学校運営協議会の部会として、新たに家庭教育部門を設置し、CSと一体的な推進を図る。

ポイント

- 土曜日の保護者も参加できる体験活動などの機会に家庭教育支援員が参加することで、多様な機会に保護者と支援員が繋がることのできるきっかけを創り出した。
- スクールカウンセラーを町の単費で活動してもらい、連携を深めることで、心理学に基づいた専門的な支援を家庭の状況に基づいて、個々に実施できる体制を構築した。

成果

- 複数の不登校児や不適応児の居場所として機能し、学校復帰に繋がる道筋をつけることができた。また、保護者の大きな安心感につながった。
- 少数ではあるが、講座等に参加した保護者からは子育てに参考になったとの声を得られた。
- 相談会に参加した保護者からも大学教授からのアドバイスが大変有用だったと評価を得た。

